

杜の便り

発行日：
平成31年4月15日

社会福祉法人章佑会
障害者支援施設
やすらぎの杜

新年度にあたって 「令和」の時代の働き方

最近、ワークライフバランスが声高に叫ばれ、幸せな働き方とは何かを問われています。一般企業や福祉現場においても、残業を減らしたり、有給休暇を多く取得できるようになってきましたが、だからといって働く喜びが増えたり幸福感が上がる訳ではないということが分かってきました。

そもそも日本には、とりわけ福祉業界は、おもてなしの精神にあふれ、無償のボランティアを当たり前のようにこなす文化がありました。ここまでがワーク、ここから先はライフなどと割り切れるものではありません。

いったい、幸福感が得られる働き方とは、どのようなものなのでしょう。ヒントは「やすらぎの杜」にありました。先日、満面の笑みでパンを販売している利用者さんの「いつも買いに来てくれるお客さんのために頑張る」との言葉が耳に入りました。この利用者さんは、（パンを買いに来る）人に必要とされることによって頑張る元気をもらい、（昼食として買っていく）人の役に立つことによってニコニコ顔になっていたのです。人間は、人に愛され、人の役に立ち、必要とされる存在になった時に、充実感と共に幸福感を得られるのではないのでしょうか。

先日新元号の「令和」が発表されました。人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているそうです。「令和」の時代は、私たちが、これまで築き上げてきた文化に自信を持って、誰かの役に立ち、他人から必要とされる人間になれるように目指せば良いのです。それだけで、毎日が幸福感に満たされ、希望に満ちたものになると約束してくれているのです。新年度にあたり、このことを噛み締めて邁進していきましょう。

社会福祉法人 章佑会
理事長 馬場 康雄

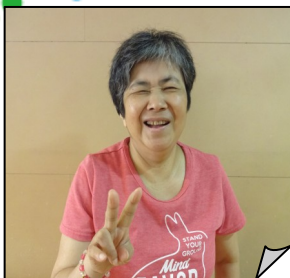
朝日生命保険相互会社様から 車椅子をご寄附いただきました！

3月25日、朝日生命保険相互会社様から、創業130周年を記念して車椅子をご寄附いただきました。同社を代表して、新都心統括支社 石神井営業所所長増川様と堀川様がお持ちくださいました。

有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



新規利用者様



名前：津守 真樹 **★2階入所★**
 好きな歌手：木村拓也、福山雅治、櫻井翔
 好きな食べ物：お寿司、中華料理、スパゲッティ
 一言：みんなと仲良くして、仕事を頑張りたいです。



名前：小宮山 恭永 **★通所部★**
 好きな食べ物：豆腐、きゅうり、キムチ、味噌汁
 好きな音楽：AKB48の恋するフォーチュンクッキー
 一言：お仕事頑張ります。



名前：高橋 壮 **★通所部★**
 好きな食べ物：あんぱん、チョココロネ
 好きなTV：機関車トーマス
 一言：協力して、仲良く過ごしたいです。

新規職員



3階 生活支援員
宇野 姫世



3階 生活支援員
中嶋 聡雅



1階 作業支援員
本堂 義一



1階 作業支援員
岸部 由利子



2階 生活支援員
横倉 瑞希



3階 生活支援員
伊藤 彩



3階 生活支援員
佐々木 裕美

- 研修報告 -

在宅医療を支える熱く燃える2人の医師・歯科医師からの研修に参加して

超高齢化社会の日本。最期の10年は病気と生きているのが現実です。身体は健康でなくとも人生は健康に生きたいものです。身体的機能はなんと20歳より低下するそうです。社会的機能は65歳から。定年退職がかなり影響するのですね。仕事を辞めた後、いかに人生を生きるか？にかかってきますね。そして精神的機能は？？？なんと死ぬまで=心の成長も死ぬまで衰えないそうです。病気による食事制限も高齢者の場合は低栄養の危険を考えながら進めることが大切で、なにより一番怖いのは衰弱です。

「食べることは生きるよろこび」誰と食べるか？家族と？友達と？繋がりが寿命を決めるそうです。孤立させない環境を作る事の大切さを学びました。

訪問歯科診療のお話は想像を超える事実が沢山ありました。在宅で口腔ケアが全くなされていないケースだと、セメントのように張り付いた歯垢をこそぎ落とし、それからやっと口腔ケアに。口はプライベートな空間。診療させてもらうのも信頼関係が大切だそうです。また、口腔ケアは誤嚥性肺炎やインフルエンザの予防にも効果が有るそうです。

口の機能は身体の中でも軽く見られがちですが、人は口から食べてその栄養で身体が造られています。それに、口から息をします。そして口でしゃべりコミュニケーションをとります。人間にとって不可欠な機能で脳機能の活用にもなります。最期まで口から食べることの大切さも改めて感じた研修でした。
(管理栄養士 西田 淳子)

ダウン症研修に参加して

数ある障害者支援の中でも特に、ダウン症の方に対する支援は難しいと言われています。それは、障害特性の「頑固さ」や「こだわり」に起因しています。

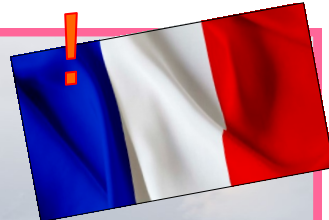
また、他障害特性と比較すると、高齢化しても「こだわり」は減少しない、という点が1つ特徴としてあげられます。通常、加齢とともに「こだわり」も減少してくるのですが、ダウン症はむしろ強くなるケースも多いそうです。私自身、今まで支援に携わらせて頂く中で、思い当たる節がいくつかありました。

今回、講義の中で印象的だったのは、本人がどこまで理解しているのかを見極める必要があるという点です。ダウン症の方は幼少期より、声掛けに対しての相槌や表情により、言語理解が十分にできていると思われていました。「分かっているようで、実は分かっていない」状態のまま、学校を卒業し、家庭から離れ、施設や会社といった生活環境へ変わる。

自分自身で置き換え、想像してみてください。周りは理解できていると思い、「これをやってみましょう」と、できない課題を与えてくるのです。今まで褒められていたことが急に褒められなくなり、こうではないと指摘される。戸惑い、憤りさえ感じるのではないのでしょうか。このギャップによって引き起こされる状態が、ダウン症にみられる「行動停止」「拒否」ではないか、と講師の方からお話がありました。こうしたギャップを生じさせない為に、本人がどこまで理解しているのか、見極めることがとても重要なのです。

今まで「行動停止」「拒否」といった行為に対して、単に全てを「甘え」だと捉えてしまっていたことが多かったように感じます。もちろん甘えの部分は少なからずあるとしても、適切な支援を行う上で、その人がどういった環境で生きてきたのか、今現在どのくらいのレベルで理解できているのかを知ることが、ダウン症に限らず全ての障害者支援に当てはまることなのではないかと感じた研修でした。
(通所支援員 辻 あゆみ)

菅原さんの作品フランスへ！！



PoMAメンバー菅原康匡さんの作品がフランスのギャラリーに展示されることになりました！きっかけはInstagramに載せた菅原さんの作品。それを見たギャラリーオーナーであり、ご自身も画家でいらっしゃるAlexandra Duprezさんから連絡を頂き、Alexandraさん主催の作品展に展示されることになりました。フランスに送った作品は11点。先日無事に届いたと連絡がありました。

作品展は2019年5月3日から6月30日まで、フランスのトゥアルヌネにあるギャラリー Galerie Plein-jour で開催されます。トゥアルヌネはフランス西部にあり、多くの若手アーティストたちが集まる港町。焼き菓子のクイニー・アマン発祥の地としても有名だそうです。今頃菅原さんの作品はそんな素敵な街に行っているのか～と思うとドキドキしてしまいます。みなさん、ぜひフランスまで作品を観に行きませんか！ 芸術担当：皆川



菅原康匡さん



Galerie Plein-jour
素敵なギャラリーですね



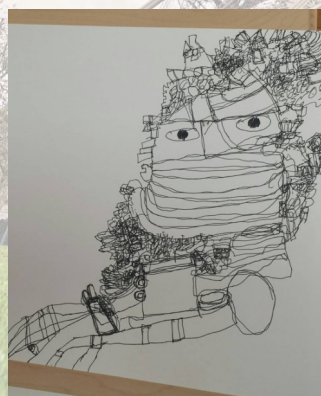
繋ぎのきっかけとなった作品
「シャイニング」を持つAlexandraさん



ギャラリーから見えるトゥアルヌネの街並み。ステキすぎる～



菅原さんの代表作「Expendables」
はジグレイ版画したものを出品



←「ガラモン」も海を越えてフランスへ

社会福祉法人 章佑会
障害者支援施設
やすらぎの杜

〈法人理念〉
あらゆる人に
生きる夢と
勇気と
希望を提供する

〒177-0051
東京都練馬区関町北-7-10
電話 03 (3928) 3315
FAX 03 (3928) 3310
Email: yasuragi.mori@gol.com

